令和5年国語科評価規準　第4学年

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるよう にする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	―	四年生で学ぶこと					
4	4 （話す聞く2）	言葉に親しもう	◇□声に出して読んだり，わかりやすく話したりすることや，内容を聞き取ったりすることを楽しみ，国語学習への意欲をもつ。				
4	2 （話す聞く2）	わたしは，だあれ	◇「わたしは，だあれゲーム」を楽しみながら，相手のヒントを聞き，正解に必要なことを質問したり聞いたりする。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1・2	○質問し合いながら，自分のカードに書いてある名前をあてるという学習の見通しをもつ。 １．物の名前をカードに書く。 （1）物の名前をカードに書く。 ２．グループでカードを交換する。 （1）カードはグループでまとめて他のグループと交換する。書かれている名前がわからないようにする。 ３．カードを確かめ，相手に渡す。 （1）カードを１枚もらって２人で組みになる。相手のカードの名前を確かめてから渡す。自分のカードの名前は見ない。相手の名前は知っているが自分の名前は知らないようにする。 ４．カードに書かれた名前をあてる。 （1）相手からのヒントを元に質問し合い，自分が何になっているかをあてる。 例） Ａ「わたしは，こういうものです。」（カードを相手に見せる） Ｂ「ああ，あなたはよく空を飛んでいて，気持ちよさそうですね。」【ヒント】 Ａ「気持ちよさそうに見えますか？　どんな季節によく見かけますか？」【質問】 Ｂ「秋によく見かけます。めがねも似合っていますよ。」【ヒント】 Ａ「わたしはとんぼですか？」 Ｂ「そうです。」 ○質問やヒントを出し合いながら伝え合うおもしろさや難しさを振り返る。	○自分が何なのかがわからないことを楽しみ，予想したり，ヒントを出し合ったりしながらあてることを確認する。 ○はじめは昆虫の名前・乗り物の名前などに限定することで，いくつかの質問で名前を見つけられるようにする。やり方がわかったら，物の名前だけでなく，職業の名前等から考えるようにする。 ○グループで自分たちのグループで出された名前を見合い，どんなヒントを出すとよいかを話し合うようにする。そのカードはグループごとに交換し，中身がわからないようにしてからカードを分ける。 ○グループの中で２人組になり，「わたしは，だあれゲーム」をする。クラスの実態に応じて，３～４人組になり，１人が名前をあてるときに，２～３人がヒントを出したり質問に答えたりしてもよい。 ○やり方がわかったら，職業の名前や歴史上の人物の名前から選び，会話をする。例えば電車で乗り合わせたと仮定して会話を続け，最後に自分はどんな職業だと思ったかを伝え合う。仮想した役になってやりとりをすることを楽しみながら，会話するおもしろさを感じさせたい。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，学習の見通しをもって，自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
	2	春のうた	□繰り返し音読をしながら，言葉のリズムや響きを味わい，イメージの広がりを楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)イ	3	１．繰り返し音読し，それぞれの「ケルルン　クック。」の読み方を話し合う。 ２．春を喜ぶかえるの姿を想像しながら，「ケルルン　クック。」の読み方を工夫しながら音読する。	○一連と四連で「ほっ」が繰り返されていることに注目させる。「まぶしい」から，「おおきなくもがうごいてくる。」と，感覚が目覚め，気持ちも高ぶってくることを理解させ，それが「ケルルン　クック。」の鳴き声に反映されるように感じさせたい。 ○詩全体が「春のうた」ではあるが，それを支えているのは「ケルルン　クック。」の響きである。間や声の調子，リズムなどを考えて音読させるようにする。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで，登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し，学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
		あり	□登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	4	１．「あり→ありっこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読する。 ２．「ありっこないあり」の姿を，頭の中にイメージを描いて音読を楽しむ。	○《「あり」だから「ありっこない」なんだ》という音の連鎖への気づきを大事にして，繰り返しを楽しみながら読むようにさせる。 ○想像したありの姿のイメージが膨らむような音読，歌うように繰り返しのフレーズを楽しむ音読を工夫して調子よく読ませたい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	10 （書く 3）	一　場面の様子や，登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み，松井さんになって「この日」のできごとを日記に書く。				
		白いぼうし	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，相手のことを思いやったり，親切にしたり，真心をもって接することについて考える。	1～3 4・5 6・7 8～10	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．場面ごとに松井さんが出会った人やもの・ことをまとめ，松井さんの気持ちを想像する。 （1）初発の感想をノートにまとめて紹介し合う。 （2）全体を４つの場面に分け，それぞれの場面で松井さんが出会った人や，もの・ことをノートなどに整理する。 （3）場面ごとの松井さんの気持ちを，(2)で整理したものに書き加える。 **考えよう** ２．作品の特徴である，匂いや色を表す言葉を見つけ，その言葉と場面の様子や人物の気持ちとのつながりを考えて話し合う。 **深めよう** ３．登場人物の中で，特に気になった人物について考えや感想をもち，話し合う。 **広げよう** ４．松井さんになったつもりで，「この日」のできごとを日記に書く。 （1）今までに学習したことを生かして書く。 （2）書いた日記を友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○作品との出会いを大切にし，最初の印象をノートにメモさせて紹介し合うようにする。 ○「どんなところが楽しかったか」「どんなところに興味を引かれたか」「どんなところが不思議だったか」など，具体的に示せるようにする。 ①まず，作品の全体を見渡す。４つの場面に分かれていることを確認し，それぞれの場面で，松井さんがどのような人物やもの・ことに出会い，それに対してどのような思いをもったか，行動をしたかを考えていくようにする。 ②ノートなどに，表の形で整理すると考えをまとめやすいことに気づかせる。 ○「ここが大事」にあるように，景色や場面の様子が詳しく書かれている表現を「情景描写」という。情景には，色を表す表現や，匂いを表す表現も含んでいる。情景描写には，その場面の雰囲気や，その景色を見ている人物の心情などが重ねられていることがある。情景描写を丁寧に読むことで，人物の心情などをより深く想像することができる。 ○人物を捉えるうえで，その行動（地の文）や語り口（会話文）は大きな役割を果たしている。作品に登場する人物について考えるとき，こうした表現に着目することで，その人物像を浮かび上がらせることができるようになる。 ○p.26の「言葉」とも関連させ，松井さんが関わった人物に着目しながら読むと，それぞれの登場人物の人物像が浮かび上がったり，その人物と接している松井さんの気持ちや人柄がより具体的に想像できたりする。 ○日記を書くにあたって，気をつけるべきことが２つあることを確認する。そのために，本文中の言葉を適宜引用するようにする。 ○p.25脚注の文例も参考にしながら，松井さんの人柄や，これまでの授業で学んできたことを生かして書くようにする。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちや性格，情景について具体的に想像し，今までの学習を生かして，登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4〜5	4 （書く4）	ぴったりの言葉，見つけよう	■心が動いたできごとを，短い文章で表現する。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	1	○学習の流れを知り，見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．心が動いたことを思い出す。 (1) 教科書の文章を読む。 (2) 最近のできごとを振り返り，心が動いたできごとを思いつくだけ書き出す。 (3) 思いついたものの中から，一つを選ぶ。 ２．その時の心の様子を，「うれしかった」「悲しかった」などの言葉を使わずに言い表す。	○毎日の生活の中で，心が動いたできごとに意識を向け，そのできごとを切り取るようにして，カードに書き留めていく活動なので，最初は気軽にメモしていくつもりで取り組ませたい。ある程度習慣化してきたら，表現の工夫に目を向けさせる。 ○なぜ，心が動いたのか（新しい発見や感情の揺れ動きの原因）について考えさせる。 ○「うれしい」など，気持ちを直接表す言葉を使わずに表現するように指導する。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び，学習の見通しをもって，心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
				2・3	**書こう・読み返そう** ３．5，6文ぐらいの短い文章で書く。 ○どうして心が動いたのか話し合う。 ○友達の意見を聞いて，文章を直したり，書き加えたりする。	○気楽に書かせ，書くことを習慣づけるようにする。 ○交流は，感想を書かせたり，よいところをほめたりするようにする。 ○下巻の第六単元『自分の成長をふり返って』の話題・題材を選ぶ際に活用できる。自分のカードを見返して，話題を選ぶ楽しさを味わわせたい。 ○「新たにわかったこと」「新たな経験になったこと」「感動したこと」などの心の動きが読んでわかるように，具体的に記述させる。	
				4	○書きためた文章を読み返し，学習を振り返る。 ○時間に余裕があれば，友達とお互いの文章を交流することで，心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。	○心が動かされたことが具体的に書かれているか，その時の気持ちがわかりやすく書かれているかなどについて確認させる。 ○表現が工夫されている点などについても確認させる。 ○これまで使ったことがない表現に出会ったら積極的に取り入れ，自分の文章に活用するよう助言する。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	2	漢字の広場　① 漢字の部首	△漢字の部首について知り，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．共通している部分から，何に関係のある漢字かを考える。 ２．p.30の下段の設問を解きながら，部首と漢字の意味とのつながり等について話し合う。 ３．p.31の上段の設問に提示している漢字について，それぞれの部首を考える。 ４．巻末の『漢字を学ぼう』を使って，同じ部首の漢字を集める。	○漢字の部首について知り，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○部首についての知識は，p.54からの『漢字辞典の引き方』の学習に結びつく。 ○「漢字を主に意味のうえでなかま分けするときに，目印とする部分」が「部首」であることをおさえる。 ○「部首と漢字の意味には深いつながりがある」ことを「日」「木」を部首とする漢字をもとに，具体的に考えられるようにする。 ○部首は，「へん」だけではなく。また，「へん」が部首とは限らない場合がある。 ○提示してある部首の形に着目し，それぞれの漢字のどの部分に目印となる形が含まれているかを見つけられるようにはたらきかける。 ○偏旁冠脚については三下で学んだ。 ○ここに示す部首の呼称は，代表的なものである。「女」がへんの位置にくると「おんなへん」，「雨」がかんむりの位置にくると「あめかんむり」とも呼ばれる。 ○ここでは，代表的な部首とその呼び名について理解させておきたい。 ○漢字の組み立てと意味に興味がもてるようにする。興味，関心がこのあとの『漢字辞典の引き方』に結びつくようにしたい。 ○それぞれの部首が，どんな意味に関係しているかを考えるのは，想起できるおおよその範囲でいい。 ○それぞれの漢字の部首や部首の呼称などは，漢字辞典によって異なるものもあることをおさえる。	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで，漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習の見通しをもって，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
	2 （書く2）	漢字の広場　① 三年生で学んだ漢字　①	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	５．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ６．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ７．作った文を互いに発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.32の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○各自ばらばらに読むのではなく，言葉一つ一つを全員で声に出して読むようにし，読み方を確認できるようにする。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○書いた文や文章を互いに読み合ったり音読し合ったりして，その内容や表現について，感想や意見を述べ合い，自分の文や文章のよいところを見つるようはたらきかける。 ○漢字の部首について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5～6	16 （書く3）	二　けっかとけつろんのつながりをとらえよう	□△説明文を読んで，問題をつかむ過程や問題を解き明かしていく過程の考えの筋道を捉える。				
5	2	ぞうの重さを量る	□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を，叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	1 2	１．大きな重い物の重さをどのようにして量っているのか，想像し話し合う。 ２．教材名や挿絵をもとに，象の重さをどのようにして量ったのか，話し合う。 ３．曹沖が象の重さを量った手順の一つ一つについて，なぜそのようにしたのか話し合う。 ４．曹沖が難しい問題をどのようにして解決したのか，考えの筋道にふれながら説明する。	○日常，目にする大きく重い物，例えば，トラックやバス，船などの乗り物，ゾウやサイなどの動物をあげ，どのようにして重さを量っているのか，想像して話し合う。量る方法を知っている者がいる場合には，説明させる。 ○挿絵を見て，現代の話ではないことをおさえておく。 ○①～③段落を読み，問題が具体的になっていく過程をつかむようにする。 ①「いったい何キログラムなのだろう」，②「だれか，ぞうの重さを量ってみなさい」，③「さおばかりかてんびんばかり」などの表現に着目する。 ○問題解決の難しさを踏まえ，昔の中国でどのようにしてゾウの重さを量ったのか，考え合うようにする。 ○本文上に①～④で示されていることと＊で示されていることの違いに着目させ，問題解決に複数の手順があることに気づかせる。「まず」「次に」「最後に」の表現とも合わせて考えるようにする。 ○曹沖がした一つ一つの手順の意図やそこから明らかになったことを説明し合う。ゾウを船に乗せて沈んだところに印をつけたこと，その印のところまで石を積んだこと，積んだ石の重さを量ったこと。 ○曹沖がしたことの手順を説明することをとおして，曹沖が，一度に解決できない問題を複数の手順に分けて解決した考えの筋道に気づくようにする。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） 【態度】粘り強く，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え，学習の見通しをもって，考える筋道をつかもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5～ 6	10 （書く 3）	花を見つける手がかり	□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論，実験を繰り返していく考えの筋道などを，叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表C(2)ア	3	**確かめよう** ５．文章の冒頭部分を読み，実験の筋道をたどる。 （1）もんしろちょうについて知っていることを話し合う。 （2）文章で明らかにしようとしている問題と予想される答えを，題名と①②段落をもとに話し合う。	○題材に関する既有知識を思い出させる。 ○題名と①②段落から「もんしろちょうは何を手がかりにして花を見つけるのか」と問いを立て，「花の色か，形か，においか」と予想したうえで解明に向かう文章であることをおさえておく。③段落以降に実験・観察の経過が書かれていることを確認する。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cウ） 【態度】粘り強く，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え，学習の見通しをもって，結果と結論のつながりを捉えようとしている。
				4	６．段落分けや「始め・中・終わり」の構成を確かめ，初読の感想をまとめる。	○単元名やリード文から，実験の筋道をたどり，実験・観察とそこから明らかになったことを説明するという単元の流れを確認する。 ○これまでに読んだ本の中に昆虫や動物の秘密を解き明かすものがあったかどうか，経験を確認する。	
				5～8	**考えよう** ７．問題と実験からわかった事実，そこから筆者が導き出した結論との関係に気をつけて文章を読む。 （1）三つの実験について，それぞれ，「使ったもの」「そのとくちょう」「実験けっか」「けつろん」に分けて表にまとめる。 （2）⑭段落で予想される反論を取り上げている意味を考えて，話し合う。 （3）⑤⑥段落に着目し，日高先生たちがもっていた「もう一つの疑問」について話し合う。	○１時間につき，一つの実験を扱う。 ○ノートに実験についてまとめる際，最初の実験は全体で確認しながら行い，徐々に二人組や個人で行うようにする。 ○「実験１」は，「まず」という言葉に着目させる。 ○「四種類の色の花」と「生まれてから花を見たことのないもんしろちょう」を使って実験し，花の色によって集まり方が違うという観察結果，「生まれながらに，花を見つける力を身につけているよう」（⑥段落）という結論を得たことをおさえる。 ○「実験２」は，⑨段落の「そこで，今度は，」と始まる言葉に着目させる。 ○「においのしないプラスチックの造花」と「色は，花だんのときと同じ」花を使って実験し，花の色によって集まり方が違うという観察結果を得たことをおさえる。 ○「実験３」は，⑪段落の「次の実験では，」という言葉に注目させる。 ○「四角い色紙」と「用意した色は，前と同じ四種類」を使って実験し，「色紙にももんしろちょうは集まる」「花の色によって集まり方が違う」という観察結果を得たことをおさえる。 ○⑭段落が三つの実験のまとめになっている。「このような実験から」という言葉に注目させ，気づかせるようにする。 ○p.41の花の写真にも注目させる。四つの花に共通しているのは，おしべやめしべが黄色だということである。ダリアは⑭段落の反論と対応している。 ○ここまで「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を追って読んできたが，もう一度「実験１」に着目し，その意味を考えるようにする。「書かれていなかった疑問」を明らかにする。 ○学習活動の中で，「ここが大事」にある結果と結論，事実と意見の区別を扱う。教材文には，事実と筆者の考えや推論が交互に書かれている。違う色で線を引かせるなどして，違いを意識させたい。	
				9～11	**深めよう** ８．実験の進め方や結論の出し方について話し合う。 （1）三つの実験を比べて，考えの進め方の特徴を捉える。 **広げよう** ９．児童が筆者とともに問題を追究しているような，文章のおもしろさについて考える。	○「花の色か，形か，においか」と予想したことと，実験に使った花・造花・色紙との関係を考えさせる。 ○結論を導くにあたって，予想したことを一つずつ消去していったことに気づかせる。 ○問題を解明していく考えの筋道がそのまま描かれていること，「～していきます」「～してみました」などの臨場感のある表現が使われていることなどに着目して考えるようにする。	
				12	○学習を振り返る。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	4	分類をもとに本を見つけよう	△学校や地域の図書館へ行き，「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり，図書館の分類の仕方を確かめたりする。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆社会，理科，　総合：調べ学習で本を探す	13・14	○分類記号を手がかりに本を探すという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 10．図書館の本の分類の仕方を知る。 （1）身のまわりで，分類されているものを考える。 （2）図書館に行き，本が内容ごとに分類され置いてあることを確かめる。 （3）「日本十進分類法」の仕組みを知る。 （4）ラベルの記号について知る。	○図書館の本が内容ごとに分類されているのを知ることは，必要な本を自分で探すための基礎的な知識となる。 ○本教材の学習を行うためには，自校の図書館の環境整備が必要である。分類配架，分類案内板の整備，日本十進分類表の掲示などを行っておきたい。 ○スーパーマーケットの商品など，身のまわりで分類してあるものを考えさせる。 ○図書館の本も内容ごとに分類されて置かれているので，必要な本を容易に見つけ出せることに気づかせる。 ○学校司書の協力を得て，「日本十進分類法」についての説明を聞く活動も考えられる。 ○小学校の図書館だけでなく，中学校や高等学校の図書館，公共図書館でも，「日本十進分類法」により本が分類されていることにふれる。 ○分類記号の読み方に注意する。 ○図書記号は，各学校の図書館の付与の仕方に合わせて説明する。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し，学習の見通しをもって，分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
				15	11．分類記号を手がかりに本を探す。	○「分類記号から本を探す」「テーマから本を探す」「本のラベルを隠しておき，分類をあてる」「分類ごとに本を選び，グループでミニ図書館を作る」などゲーム性を取り入れた活動を行い，楽しく分類記号についての理解を深められるようにさせたい。	
				16	12．分類記号を手がかりに，自分が読みたい本を探して読む。	○自分の興味のあることや調べてみたいことは，何類の本かを確かめてから本を探すようにさせる。 ○自分がよく読んでいる本の類から自分の読書傾向を考えさせ，ふだんは手にしない類の本を読むよう勧めるのもよい。さまざまな類の本を手にする機会としたい。 ○地域の公共図書館の分類の仕方やラベル等を紹介し，より本に関心をもたせる。	
6	3 （話す聞く3）	メモの取り方をくふうして聞こう	◇メモの取り方を工夫したり，質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1	○校長先生や図書ボランティアの話を聞き，聞き取りメモを作成するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 **話そう・聞こう（重点）** １．メモを取りながら，お話を聞く。 （1）教科書を開かずに，p.50・51のお話を聞き，メモを取る。 ２．聞いた内容について，メモをもとに友達と話し合う。 （1）メモを見せ合いながら内容を確認する。メモの取り方を交流する。 ３．自分の考えを伝える。 （1）自分が作るとしたらどんな言葉を選ぶかを考え，発表し合う。	○話の中心に気をつけて友達の話を聞くこと，大切な情報を明らかにすることができるよう意識づける。 ○メモに書くこと，書いたメモのどこがわかりやすいのかを確かめる。 ○必要な情報をメモに書けるように，大事なことを確かめながら聞かせる。 （メモを書く時の注意点：簡潔に書く，箇条書きなどで書く，記号や図・絵などを交えて書く，大事なことやその理由などをわかりやすく書くなど。） ○考えた言葉を交流する活動をとおして，メモが生かされることを実感できるようにする。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，学習の見通しをもって，大切なことを落とさないように聞こうとしている。
				2・3	４．メモを取りながらお話を聞く。 （1）p.52を教師に読んでもらい，実際にメモを取って友達と比べる。 （2）メモの取り方を確認する。 （3）互いにメモを取りながらインタビューし合う。 ５．聞いたことをまとめる。 （1）聞いたことをメモをもとに発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.53の聞き取りメモを読み，横書きのメモの仕方，箇条書きの方法や記号の使い方，自分の考えのメモの仕方などを確認する。 ○ペアで互いに聞きたいことを質問し合い，メモを取り合うことで，メモの取り方が工夫できるようにする。メモした内容を感想の交流に生かせるようにする。 ○日常生活においても，大事なことを確かめながらメモを取りながら聞くことができるように意欲づける。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	2	漢字辞典の引き方	△漢字辞典の引き方を理解し，活用する。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	1	○学習の見通しをもつ。 １．教材文を読んで，漢字辞典の引き方を理解する。 ２．手がかりによって，どの索引を活用すればよいかを理解する。	○教材冒頭の会話文によって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○漢字の読み方や意味，使い方などを知るには，漢字辞典を活用するとよいことに気づかせ，漢字辞典に興味をもたせる。 ○教材文にそって漢字辞典の引き方を確認させ，理解させる。漢字辞典は，部首索引・音訓索引・総画索引のどれかを利用して引くことを確認させ，実際に引きながら確認するようにする。辞典によって，漢字の並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので，自分の持っている辞典を確認し，使えるように指導する。また，筆順が載っているなど便利な機能もある場合があるので，それに気づかせ，辞典の活用の幅を広げることもできる。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し，学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
				2	３．設問に従って，部首索引・総画索引・音訓索引を活用して漢字を調べる。 ○学習を振り返る。	○一人一人が独力で，それぞれの引き方で調べられるようにする。 ○どの索引を使えば引きやすいかを見当づけられるようになることも大切。見当をつけさせて引かせ，友達どうしでどの引き方がわかりやすかったのかを発表させると，さらに引き方に慣れさせることができる。 ○知らない漢字や熟語に出会ったときには，辞典を活用することの便利さを意識できるように，辞典の使い方に慣れさせておくとよい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	10 （書く10）	三　伝わりやすい組み立てを考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え，見学したことや調べたことを報告する。				
		リーフレットで知らせよう	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。	1 2・3 4～6 7～9 10	○「学習の進め方」を読み，何を誰に報告するのかを考え，学習活動の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．課題を見つけ，伝えたいことを決める。 （1）自分が調べたい課題を見つける。 （2）見学してきたことをもとに，伝えたいことを決める。 **組み立てよう（重点）** ２．リーフレットの組み立てを考える。 （1）メモの中から取り上げたい項目を洗い出す。 （2）伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。 （3）グラフや図，写真などを整理したり，それぞれの項目と関連づけたりする。 **書こう・読み返そう（重点）** ３．リーフレットを作り，読み返す。 **伝え合おう** ４．読み合う。 ○学習を振り返る。	○相手意識や，目的意識をしっかりともたせる。 ○学習の流れを確認し，見通しをもって活動できるようにする。 ○学校図書館や各種資料をもとに取材活動を行うようにする。 ○社会科の教科書や資料などをもとに，疑問に思ったことなどから課題が設定できるようにする。 ○教師が教えるのではなく，児童が発見できるようにする。 ○それぞれの見学メモが一覧できるようにし，見学前に考えていた課題と見学してわかったことが比較できるようにする。 ○見学してさらに疑問に感じたことなども調べ，メモに書く。 ○何を伝えたいか（リーフレットに書きたいか）を決める際には，読む人が誰かを意識させるとよい。 ○見学メモや調べたことメモの中から，特に伝えたいことを探す。p.60のように，メモに「くふう①」と番号をつけるなど，メモに直接書き込みながら，取り上げる要素を考えさせてもよい。 ○p.61上部のような下書き用紙を使い，リーフレットの構成を考える。伝えたいことが明確になるような構成を児童に考えさせたい。参考としてさまざまな構成（割り付け）例を提示するとよい。 ○前時から使っていたメモを直接下書き用紙に貼り，構成を考えるとよい。 ○引用資料やグラフ，出典を適切に用いるように指導する。その際，書く内容に対してどのような図やグラフがあるとわかりやすくなるか，客観的な資料を使うことで，どのような点が明確になるかをおさえておくようにする。 ○下書き用紙と見比べ，必要なことが抜けていないかを確認する。 ○特に，見出し，文末表現や敬体の表現について丁寧に指導する。 ○見出しやイラストの工夫などについてもあわせて指導したい。読む人を考えた工夫がなされているかについて，再度確認する。 ○かぎの使い方，直し方などを確認する。 ○クラスで交流し，伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか，意見を述べ合う。 ○完成したリーフレットは，想定した読み手に合わせた場所に展示できるとよい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に，書く内容の中心を明確にし，文章の構成を考え，学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6〜 7	4 （書く 1）	短歌の世界	△短歌を声に出して読み，言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒◎知技(3)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。	1 2・3 4	○p.64・65を読んで，学習のめあてをつかむ。 １．短歌の特徴を知る。 ２．解説を読みながら，それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。 ３．好きな短歌を選んで，書き写したり，感想を書いたりする。	○短歌の特徴をつかみ，短歌を読み，リズムを感じたり，情景をイメージしたりすることをおさえる。 ○p.64の持統天皇の歌をもとに，音数を確かめる。 ○写真などを手がかりにしながら，どんな情景や心情が描かれているのかを頭の中に思い浮かべさせる。 ○リズムや響きを感じ取ることを大事にしたい。 ○音読しての感想を自由に言わせてもよい。 ○リズムを意識しながら，何度も声に出して読ませる。また，気に入った短歌を選んで，「紹介カード」を書き，友達どうしで交流させる。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし，学習の見通しをもって，言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
7	2	漢字の広場　② 漢字の音を表す部分	△形声文字における部首と音符について知り，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「寺・時」「板・飯・坂」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。 ２．例示する漢字の部首と音を表す部分が，それぞれ，「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ，話し合う。	○漢字の音を表す部分について知り，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○全ての漢字に「音を表す部分」があるわけではない。ここでは，漢字の中には「音を表す部分」をもつものがあることに着目できればよい。なお，「形声文字」の語は五下で学ぶ。 ○部首と同様に，音を表す部分が，偏旁冠脚のさまざまな位置にあることがわかればよい。	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習課題に沿って，「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
				2	３．p.71の上段の設問を解き，音を表す部分への関心を深める。 ４．漢字辞典の音訓索引を使い，音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し，ノートにまとめ，発表し合う。 ５．音を表す部分の中には，文字によって音が違うものがあることを知る。	○提示の文を各自で音読する。 ○この学習をとおして，未習の漢字でも，音を表す部分を手がかりに，経験的に読み方を推測できることに役立てればよい。 ○調べた漢字を使う熟語を集めたり，短文を作ったりするとよい。 （例）「体育館の前で水道管の工事が始まりました。」 ○漢字辞典や巻末の『漢字を学ぼう』などを活用して調べる活動を十分に取り入れ，興味・関心を喚起できるようにする。 ○「主・住・注・柱」など，例示の漢字を使う熟語を探したり，短文を作ったりして，それぞれの読み方を声に出して確かめるとよい。 （例）「主語・住所・注意・電柱」 （例）「短期間だったが，登校の列の先頭を歩いた。」	
	2 （書く2）	漢字の広場　② 三年生で学んだ漢字　②	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	６．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ７．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ８．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.72の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる病院の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○自分が書こうとしていることが，はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかどうかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○漢字の音を表す部分について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
7	10 （話す聞く2）	四　登場人物のせいかくや，気持ちを想像して読もう	□場面や人物の様子を想像しながら，落語を音読したり，演じたりする。				
7		ぞろぞろ（落語）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2 3～5 6～8 9・10	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．初読の感想をまとめる。 （1）落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目して全体を見渡す。 （2）場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読み，落語のおもしろさを実感する。 **考えよう** ２．会話から，場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読む。 （1）茶店のじいさんの「ご利益」に対する考え方が，落語のはじめと終わりでどのように変わったかを考える。 （2）茶店のじいさんのせりふと，床屋の親方のせりふを手がかりに，二人はそれぞれどのような人柄だと思うか，感じたことを話し合う。 **深めよう** ３．落語がいちばん盛り上がる場面を考え，工夫して音読する。 （1）場面の展開をもとに，落語がいちばん盛り上がるところを考えて，音読したり演じたりするときに生かす。 （2）p.89の音読記号などを使いながら，工夫して音読する。 **広げよう** ４．好きな場面を選んで，音読したり，落語のように演じたりする。 （1）p.89の音読記号や，読む時の気持ちを書き込んだ音読台本などを作って演じる。 （2）音読を聞き合い，友達が工夫しているところなどを見つけて感想を話し合う。 ○学習を振り返る。	○落語のおもしろさにふれることが，まず大事である。 ○登場人物の様子を想像して読み，音読したり，落語のように演じたりしてみるという単元の見通しをもたせる。 ○落語の基本的な話の構成の一つに，繰り返しがある。繰り返しの効果を考えながら声に出して読むようにする。 ○登場人物を具体的に想像すると，せりふの言い方などがイメージできる。 ○場面の最初と最後を対比させて，変容を捉える読み方は，文学的文章を読むときには大切である。おじいさんの「ご利益」に対する考え方の変化を捉えるようにする。 ○せりふの言い方一つで，人物の性格や人柄が想像できる。 ・茶店のじいさんの言葉の敬語表現に着目させる。 「～参りました。」「お初に～」「～ございます。」 ・床屋の親方の言葉に着目させる。 「初めまして。」「～ござんす。」「あるだけのぜにを～」 ○p.90の「言葉」の学習も，適宜取り入れるようにする。 ○音読する場合は語り口の強弱や速さ，間などに注意が必要である。p.89の「音読記号のれい」をもとに，その時の「気持ち」なども入れておくとよい。 ○落語の最初から最後までを演じようと思うと，児童にとっては大きな負担になりかねない。自分が演じてみたい場面や人物にしぼって練習や発表をさせていくようにする。 ○友達の工夫した表現は，ぜひとも仲間どうしで交流して相互評価させたい。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格，情景について具体的に想像し，学習の見通しをもって，落語を音読したり演じたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	1 （話す聞く1）	「夏の思い出」記者になろう	◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら，質問をする。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1	○夏休みの思い出を友達から聞き出す活動をとおして，インタビューの仕方や聞くことの方法について学ぶという学習の見通しをもつ。 **話そう・聞こう（重点）** １．グループでインタビューをする。 （1）4～5人のグループに分かれ，「記者会見の場」を設定して，一人がインタビューを受ける人，残りがインタビュアーの役になって，インタビューを行う。 ①インタビューを行う（5分間）。 インタビューの際のルール ＊同じ質問はできない。 ＊答えにくいことには「ノーコメント」と言う。 ②うまく尋ねられたこと，もっと尋ね方を変えたほうがよいところ，うまくできなかったところなどを出し合い，改善の方法を話し合う（5分間）。 ③役割を交替してもう一度インタビューを行う（5分間）。 ④尋ね方がよくなったところ，まだまだなところを確かめ，改善の方法について話し合う（5分間）。 （2）相手に詳しくきくことを目的に，役を交替してさらにインタビューを行う。 （3）インタビューの仕方，話し方の工夫点などについて確かめ合う。 ○学習を振り返る。	○どんな尋ね方をすればいいのか，どのように答えればいいのか，夏休みにどんなことをしてどのように思ったのかなどについてあらかじめ考えさせておく。 ○インタビュアーの数が多くなりすぎないように気をつける。 ○はじめは，一問一答式でもよい。 ○相手の答えを引き出しやすい質問となるように工夫させる。 ○相手の気持ちを損ねないで尋ねる（話しやすい気持ちにさせる）よう気をつけさせる。 ○具体的な事柄やその時の気持ちなどを尋ねたときの相手の反応などを確かめさせる。 ○「場」の雰囲気の大切さにも気づかせるようにしたい。 ○先に質問した人の話を掘り下げてきいたり，質問に対する答えにさらに質問をするなどで，詳しい話をきき出せるようにできるとよい。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，学習の見通しをもって，相手の話を引き出す質問をしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	11 （話す聞く6，書く5）	五　写真などの図のよさを知り，活用しよう	◇■写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき，写真や図を効果的に用いて表現する。				
9	6 （話す聞く6）	写真をもとに話そう	◇伝えたいことをはっきりさせて，理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ☆特別活動（朝の会など）：メモをもとにスピーチをする。	1	○単元名やリード文を読み，いちばん伝えたいことをどのようにして伝えたらよいかについて話し合い，学習の見通しをもち，学習計画を立てる。 **決めよう・集めよう** １．話すための写真を選ぶ。 ・p. 94・95の４枚の写真を見て，写っているもの，写真の撮り方の特徴を整理する。 (1) 話す写真を決める。	○いちばん伝えたいことをはっきりさせ，理由や事例をあげながら，筋道を立てて発表することを理解させ，意識づける。 ○写真は，撮した角度や位置，トリミング（切り取り方）などによって伝えられる（伝わる）意味・情報が変わってくることや，それらを意識して撮っているものであることなどを理解させる。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】粘り強く，理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え，学習の見通しをもって，写真から読み取ったことを話そうとして
				2・3	**組み立てよう（重点）** ２．読み取ったことを整理し，組み立てを考える。 (1) p. 96を参考に読み取れることをメモにまとめ，組み立てを考える。 ・写真を見て気づいたことや想像したことをメモにまとめる。 ・メモをもとに，話す構成を考える。 ・北原さんの発表を参考にして，話す練習をする。 ・グループで聞き合い，感想や意見を交流する。	○図表や絵・写真などから読み取る経験をすることも学習のねらいとなっている。 ○p. 96の「北原さんのメモ」と「春田さんのメモ」を参考に，「気づいたこと」「想像したこと」等をメモにまとめさせる。 ○その他の写真を加えてもよい。 ○選んだ写真を見て，写っているもの，動きや大きさ，撮した角度や位置，トリミング（切り取り方）などに注目させる。 ○写真から情報を取り出し，自分なりの価値づけを行ったり，受け取り方の違いを共有したりする。 ○ノート（ワークシート）にメモをまとめ，その後に話の組み立てを考えるようにする。 ○生活班などで聞き合うようにする。 ○写真を手に持って見せる場合は，見せ方にも気をつけるようにする。	
				4・5	**話そう・聞こう** ３．発表する。 (1) メモをもとに写真を見せながら発表する。 ・教科書の写真を使って発表するだけでなく，自分の写した写真や，探してきた写真をもとにして話す活動も取り入れる。 ・写真を決める。 ・写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ・メモをもとに話す構成を考える。 ・発表し合う。	○写真を見比べて，いろいろな違いを交流させる。 ○写真を持ち寄るときは，同じような撮り方をしている写真や，異なる撮り方をしている写真等を取り上げるとよい。	
				6	**伝え合おう** ４．感想を伝え合う。 (1) 自分や友達の発表を振り返る。 ・写真のどの部分からそう考えたのか，相手にわかるように発表することができたか，人によっていろいろな見方や考え方があることがわかったかどうか確かめる。 ・話すときの観点や聞くときの観点に気をつけて確かめる。 ○学習を振り返る。	○「伝えたいことをはっきりさせていたか」「理由や事例などをあげながら話すことができたか」「筋道を立てて発表することができたか」など，話すときの観点を示しておく。 ○「写真から読み取ったことがはっきりしていたか」「組み立てが考えられていたか」「話にまとまりがあったか」「言葉づかいはどうだったか」など，聞くときの観点も示す。 ○自分の考えとの違いなどがあったかどうかについても考えることができるようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	5 （書く 5）	新聞を作ろう	■割り付けを工夫して，わかりやすい紙面の新聞を作る。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	7	○新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り，学習の見通しをもつ。 （1）教科書の新聞例から，どんな工夫をしているか話し合う。 （2）教科書の新聞の作り方を読んで，活動の流れを確認する。	○一般紙やこども新聞と比較する。 ・新聞をとっていない家庭もあるので学校で準備する。 ・できればこども新聞のほうが読みやすい。 ○割り付け，トップ記事，題名，見出しなど，新聞を書くうえで必要な事項を確認する。 ・見出し，小見出しなどを確認する。 ・情報の重要度によって，記事の大きさや位置を工夫していることを確認する。 ・写真や図表の効果について確認する。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）
				8	**決めよう・集めよう** ５．知らせたいことを決め，調べる。 （1）記事を書くために取材をする。	○相手や目的に応じて何を書くのかを考えさせる。 ○相手に応じて取材する内容を考えさせる。	◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）
				9	**組み立てよう** ６．記事の割り付けを考える。	○新聞の内容，目的に合わせて，トップ記事を決めさせる。 ○誰がどの記事を書くかの分担を決めさせる。 ○伝えたいことの中心を決めて，簡潔に一文を短くして書くよう指導する。 ○記事の順番や大きさなどの違い，また，どんな写真を選ぶかなどによって，読み手に与える印象が変わってくることなどについても意識させる。←メディア学習の観点	◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ）
				10	**書こう・読み返そう（重点）** ７．記事を下書きし，読み返して清書する。	○書き方がわかりやすいかどうか，交流をさせるようにする。 ○記事の見出しのつけ方やデザインの仕方によって印象が変わってくることなどについても理解できるようにしたい。←メディア学習の観点	【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし，学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
				11	**伝え合おう** ８．新聞を読み合う。 ○友達からの意見をもとに，自分たちの新聞を読み返す。	○クラスで交流し，伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか，意見を述べ合う。 ○国語の授業や他教科等の学習に生かすようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	2	漢字の広場　③ 送りがなのつけ方	△送り仮名は，漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し，漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。	○送り仮名のつけ方について理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○三上『漢字の広場③　送りがな』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
					１．言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。	○「ふつうの言い方」「ていねいな言い方」「動作を打ち消す言い方」「動作がすんだことを表す言い方」などの観点をもとに，送り仮名の違いを考える。 ○動詞として使われる漢字について，活用によって送り仮名がどう変わるのかを具体的に考え，的確に読み書きできるようにしていきたい。	【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字を正しく使おうとしている。
					２．送り仮名に着目し，常体を敬体に変えてみて，話し合う。	○それぞれの語を使い短文を作り，比較するとよい。 （例）わたしは，きのう，本を読まなかった。 　　わたしは，きのう，本を読みませんでした。 ○活用語尾を送るという送り仮名の原則的なつけ方についての理解を深め，活用についての意識がもてるようにする。	
					３．例文を常体と敬体，肯定と否定，現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ，送り仮名を確認する。	○常体と敬体，肯定と否定，現在形と過去形などの別に基づく動詞の語形変化の法則性を経験的に理解できるようにする。	
				2	４．動詞として使われる漢字のうち，訓読みが複数あるものを取り上げて，送り仮名によって読み方と意味を使い分けることについて習熟を図る。	○今後の新出漢字の学習で，送り仮名がつくものについては，送り仮名に注意して書くことができるよう，この教材で意識化できるようにしておく。	
					５．動詞として使われる漢字を集め，活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ，発表する。	○発表に際しては，意味の通る短い文で書き表すようはたらきかけたい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
	1 （書く1）	都道府県名に用いる漢字	△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3	６．都道府県名に用いる漢字について学ぶ。 ７．都道府県名を使って文を作り，発表し合う。	○社会科と関連づけて，指導する時期や内容を意図的・計画的に位置づけるようにする。 ○都道府県について知っていることを発表する。 ○社会科における都道府県の名称と位置についての学習と関連づけて指導する。 ○47ある都道府県名の読み方を確認し，覚える。 ○新出漢字の書き方を学ぶ。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文のよいところを発表し合うようにする。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
	2 （書く2）	漢字の広場　③ 三年生で学んだ漢字　③	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	4・5	８．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ９．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 10．表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.106の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○席の近くの友達と，クラスの友達のよいところについて，話し合うとよい。 ○自分が書こうとしていることが，はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○条件をつけて文や文章を書くように促すと，記述の仕方に工夫が見られるようになる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○送り仮名の使い方や都道府県名に用いる漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9～10	9 （書く2）	六　場面の様子をくらべて読み，感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら，二つの場面を比べて読み，読んだ感想を友達に伝える。				
		一つの花	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生きることを喜び，生命を大切にする心をもつことについての考え方を深める。	1 2～4 5・6 7 8・9	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．初読の感想をまとめる。 （1）登場人物や，作品で描かれている時代設定などを確かめる。また，その中でどのようなできごとが起こっていったのか，場面の様子を大きく捉え，作品の全体像を把握する。 （2）戦争中の場面について，お父さんとお母さんの，ゆみ子に対する思いの違いを考えて話し合う。 **考えよう** ２．戦争中と十年後の場面を比べながら，ゆみ子の様子と，お父さんとお母さんの思いを読む。 ・それぞれの場面の内容についてノートにまとめる。その時の，お父さんやお母さんの願いや気持ちも想像する。 **深めよう** ３．題名の「一つの花」と，文章の中の「一つだけのお花」や「コスモスのトンネル」という言葉が，どのようなことを表しているか考え，話し合う。 **広げよう** ４．心に残った場面やできごとをはっきりさせ，この物語の感想文を書き，友達に伝える。 ○学習を振り返る。	○場面を比べながら人物の思いを想像して読み，感想文を書くという単元の見通しをもたせる。 ○(1)登場人物や時代背景，できごとなどを確認させる。(2)戦争中の場面について，お父さんとお母さんの，ゆみ子に対する思いの違いを話し合う。思いは，それぞれの人物のせりふや，ゆみ子に対する行動などに表れるので，そうした叙述に着目するとよい。 ○「ゆみ子のしたこと」や「お父さん・お母さんのしたこと」は，本文中から具体的に（要約して）引用できるが，「願いや気持ち」は，本文にある場合と，読み手として想像する場合がある。後者の場合は，前後の，登場人物の言動や状況を根拠として想像を膨らませる。 ○「ちがうところ」については，「戦争中」にはなかったこと，あるいは，「十年後」にはできるようになったことなども考慮に入れる。 ○p.120の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。 ○単なる思いつきや感想ではなく，前時までの学習を踏まえて，根拠をはっきりさせながら考えを発表し合う。 ○戦争中の場面では「一つ」「一つだけ～」などの言葉が頻出している。十年後では，「いっぱい」「お話ししているかのよう～」「お肉とお魚と，どっち～」となっている。「戦争中」と「戦後」をとおして「一つ」の意味を考えてみる。 ○「ここが大事」に「感想文の書き方（れい）」がある。全体を「始め」「中」「終わり」に分けて組み立てを考える。教科書にある二例はともに「中」部分の一部である。感想の中心は「中」にあるので，内容を一・二点にしぼり，特に心に残った場面やできごとについて書くようにする。 ○伝える相手は友達である。互いに物語の内容は知っているという前提である。初発の感想と読み深めた後の感想の違いを意識して，自分の思いや考えがわかるように書くようにする。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	2 （書く 2）	いろいろな手紙を書こう	■手紙の書き方を知り，送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒◎知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ	1 2	○教材の学習の進め方を理解して見通しをもち，手紙を書くことに興味をもつ。 １．p.122の山口さんの手紙を読んで，依頼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 ２．誰にどのようなお願いをするのかを考えながら，手紙に書く事柄を決める。 ３．構成を考えながら依頼の手紙の文章を書いたり，まちがいがないか読み直したりする。 ４．案内のはがきや電子メールの書き方を知り，相手や目的に応じた手紙を書く。 ５．案内のはがきの書式を理解し，手紙のよさについて話し合う。	○三年時の学習『手紙を書いてつたえよう』を想起させ，その学習との違いを明確にする。 ○山口さんの手紙を読みながら，依頼の手紙の構成を板書で確認する。 ○p.122の下段の注記と対比しながら，構成を確認する。 ○社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など，クラスの実態に合わせて相手や依頼の目的を設定するとよい。 ○季節の言葉は，「手紙の書き方」などの類書から，教師のほうで児童の実態に合ったものをいくつか用意しておく。 ○p.123の注記と対比しながら，大事なことを確認する。 ○時間的に余裕があれば，何について誰に対して案内をするのかを考えて，案内のはがきを書かせたい。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ，学習の見通しをもって，送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。
10	2	修飾語	△文の中での修飾語のはたらきを理解する。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の会話文をとおして，修飾語のはたらきの違いに気づく。 １．教材文を読み，修飾語とは何か，どのようなはたらきの言葉かを理解する。 ２．設問に取り組み，修飾語を見つけたり，修飾語の種類を見分けたりする。 ○学習を振り返る。	○冒頭の会話文から，二人の感心していることが違うと受け取れるのは，文のどの部分が異なっているからか発表させる。 ○修飾語が異なることに関心をもたせ，文意の違いを考えさせる。 ○前学年の学習では，内容を詳しくするという修飾語のはたらきを学んだが，ここでは何を詳しくするのかによって修飾語が分類できることを理解させる。 ○上段の問題では，「どんな」「どのように」「何を」などを指標にしながら修飾語を正しく抜き出させるようにする。 ○下段の問題では，各修飾語が直後の（体言を含む）文節に係るのか，文末の（用言を含む）文節に係るのか見分けるとともに，それが「どんな」にあたるのか，「どのように」にあたるのか考えさせる。 ○教科書の説明を読んで，複数の文節がまとまって一つの修飾語になることもあるということを補足しておくとよい。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで修飾と被修飾との関係について理解し，学習の見通しをもって，修飾語を見つけたり，修飾語の種類を見分けたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	6 （書く 6）	七　自由に想像を広げて書こう	■不思議な言葉を作り，想像を広げて「ショートショート」を書く。				
		「ショートショート」を書こう	△言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	1・2	○教科書を読んで活動の流れを知り，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．不思議な言葉を作り，想像を広げる。 （1）いろいろなものの名前などを十個探して書く。 （2）言葉を一つ選び，その言葉から思いつくことを自由に書く。 （3）言葉を組み合わせて，不思議な言葉を作る。 （4）不思議な言葉から想像を広げる。	○学習の流れを知り，単元のゴールを明確にする。児童に「書きたい」という気持ちが生まれるよう言葉がけをする。 ○巻末付録「レモン自転車」を読み，「ショートショート」とはどんなお話か，どんなおもしろさがあるかを確認してもよい。 ○まずは思いつく名詞を十個ワークシートに書く。書く名詞に関連性や規則性をもたせる必要はない。自由に楽しんで書かせたい。 ○名詞の中から一つ選び，思いつくことを自由に書く。こちらも書く言葉に制限などは設けず，自由な発想を大事にして書かせたい。 ○不思議な言葉が完成したら，そのものの絵を描いてさらに想像を膨らませるとよい。 ○一人で考えるのではなく，二人組やグループでの活動をクラスの実態に応じて取り入れる。友達の意見を聞くことで，発想がさらに広がることも期待できる。 ○ワークシートに欄はないが，「よいこと」「悪いこと」以外に思いついたことも書いてもよい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりし，学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。
				3	**組み立てよう** ２．設定や物語の展開を考える。	○ワークシートにそって「中心人物」「登場人物」「いつ」「どこで」「どんなことが」など，場面設定や展開を考える。これまで学習してきた教科書教材を教師が例として板書してもよい。 ○ワークシートの設問「それから？」にそって展開を考える。また，前時のワークシートを見直しながら，結末を決める。友達とヒントを出し合いながら考えてもよい。	
				4・5	**書こう・読み返そう** ３．想像を広げながら，「ショートショート」を書く。	○話のまとまりを意識させる。 ○場面の様子や会話文，心の声を書きたすように促す。 ○場面ごとに段落を変えるなど，段落を意識させる。 ○文章量はクラスの実態によるが，「ショートショート」であるということを踏まえ，400字程度にしたい。クラスの様子や児童の実態に合わせて，字数は増減させる。 ○時間があれば，挿絵を描かせてもよい。	
				6	**伝え合おう** ４．友達と読み合い，感想を伝え合う。 ○物語作りの学習を振り返る。	○交流し，友達の作品の内容面・記述面，両方で感想を言わせる。 ○コメントカード，本の帯などクラスの様子に合わせて活用して，交流させる。 ○交流の観点（不思議な言葉のアイデアや結末のおもしろさ・会話文や登場人物の心情の表現など）を決めて交流させるとよい。 ○完成作品は，２週間程度学校図書館に置き，異学年の児童が読めるようにする。その際，感想カードを記入してもらうようにすることで児童の意欲も向上する。 ○振り返りでは「何を学んだのか」「どこを工夫すると，よりよい作品ができたのか」などについて，学習過程を振り返れるようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	1 （書く 1）	「月」のつく言葉	△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り，「月」に関係する言葉を集める。 △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒◎知技(3)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1	１．教材文を読み，「月」の呼称について知る。 ２．教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり，さらに「月」に関わるさまざまな言葉や表現を調べてノートに書き，友達と交流する。	○教科書の写真や理科図鑑などを活用して，さまざまな「月」の呼称について知らせる。 ○辞典を利用して調べる方法を身につけさせる。また，その結果を，互いに交流させる。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ，学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。

令和5年国語科評価規準　第4学年

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるよう にする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	ー	四年生で学ぶこと					
10	8 （書く2）	一　場面のうつりかわりと結びつけ，登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み，読書の世界を豊かにする。				
		ごんぎつね	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生命の尊さを感じ取り，生命あるものについての見方を深める。	1～3	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．登場人物を確認し，作品の全体像をとらえる。 （1）登場人物を確認し，それがどのように紹介されているか確かめる。 （2）ごんの気持ちがわかる表現を場面ごとに見つけ出し，気持ちの変化について考えを話し合う。	○単元とびらにある「おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。」に着目させ，想像したことを発表させる。 ○作品との出会いは，教師の範読などでもよい。 ○初発の感想を簡単に書かせておくとよい。 ○物語では，冒頭場面で登場人物が紹介されていることが多い。それぞれどのような人物として紹介されているかを丁寧に読み取ることが，あとの深い読みにつながる。 ○中心人物の一人であるごんに着目し，その心情の変化を大きく捉えさせる。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）
				4･5	**考えよう** ２．ごんと兵十の心の動きを読む。 （1）ごんに対する兵十の気持ちの変化を読む。 （2）ごんと兵十の関係の変化を読む。 **深めよう** ３．償いを始めるきっかけとなったごんの想像の理由を考える。 ＊兵十の人物紹介の場面の叙述が，実は，ごんの想像の理由にもなっていたことを読み取る。	○「たしかめよう」で，ごんの気持ちの移り変わりについてはおよその内容を捉えた。それに対して兵十はごんのことをどのように思っているか考えさせる。ごんは，穴の中で「あんないたずらしなけりゃよかった。」と考え，麦をといでいる兵十を見て「おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。」と思って償いを始める。しかし，兵十はそのことはわかっていない。兵十の，ごんに対する思いは，ごんを撃つまで変わっていないことに気づかせる。 ○ごんの気持ちは兵十に近づいている。だからこそ，お念仏の帰りに加助が兵十に「神様にお礼を言うがいいよ。」と話をした翌日にも，ごんは兵十に栗を届けに行っている。こうしたごんの行動に，兵十が気づいたのはいつかを考えさせる。	◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ）
				6	４．ごんと兵十の心のつながりについて，思ったことをノートにまとめる。 ＊ごんと兵十の心のすれ違いやつながりについて考えを書く。 ＊書いたものを紹介し合い，場面の移り変わりと人物の心情の変化について考えを整理する。	○てびきの下段にある子どもの考えを参考にして，二人はわかり合えたのかどうか，自分の考えを書かせる。 ○「考えよう」で話し合った，「ごんと兵十の気持ちがいちばん近づいたところ」をもとに，自分の考えをまとめさせる。 ○それぞれの考えを交流させながら，作品全体を見直し，場面の移り変わりと，登場人物の心情の変化のつながりについて，そのおもしろさに気づけるようにする。単なる感想の交流ではなく，場面構成の工夫や，巧みな叙述のつながりに気づくことができるようにする。 ○教科書p.26にある例文を読み，景色や場面の様子が詳しく書かれている表現のよさについて考えさせる。 ○季節を表す言葉や複合語については，場面の移り変わりを捉えたり，内容を読み深めたりするなかで適宜取り上げて扱うようにすると効果的である。	【態度】積極的に，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。
				7・8	**広げよう** ５．この物語のおもしろいところや工夫されているところをお薦めするポスターを書く。 （1）物語の内容をもとに，ポスターの題名を考える。 （2）できあがったポスターを読み合う。 ○場面の移り変わりと，登場人物の気持ちの変化を捉えることができたかを，ノートなどを見直しながら振り返る。 ○『ごんぎつね』をお薦めするポスターに，自分の考えた題名をつけ，それに対する説明を書くことができたか振り返る。	○作品全体を読み直して，ポスターの題名を考えさせる。その時に，ごんと兵十の心情の移り変わりや，お互いの心のつながりなど，本単元で学習してきた学習の記録を見直すようにするとよい。ポスターの題名が，作品に対する主題の捉えにつながっていく。 ○できあがったポスターを読み合うと，それぞれの人が，『ごんぎつね』という作品をどのように読み，どのように受け止めたのかがわかってくる。共通点や相違点を考えながらポスターを読み合うようにさせる。 ○今までの学習を振り返らせるには，まとめてきたノートやワークシートなどを見直すように促す。また，自分の作ったポスターをもとに，作品をどのように受け止めたのかを改めて考えさせるようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10 〜 11	5	「読書発表会」をしよう	△紹介したい本を何冊か選び，「読書発表会」をし，読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して，読書の幅を広げ合う。	1〜3	○「読書発表会」でテーマにそって本を紹介するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 １．紹介したい本を選び，「読書発表会」の準備をする。 (1) 発表のテーマにそった本を集める。 (2) 紹介する本の順番を決め，組み立てメモをもとに，発表内容を考える。 (3) 発表の練習をする。	○本教材に入る前に，テーマを意識した読書をさせておくとよい。読んだ本とその本のテーマを記録させておく。 ○教師や学校司書，公共図書館の司書のブックトークを実際に聞く機会をつくると，テーマにそって本を紹介するというイメージをもたせやすい。 ○テーマに合わせ，３冊程度の本を紹介するようにさせる。 ○１冊の本からさまざまなテーマが考えられることの例を示す。 ○物語に限らず，いろいろなジャンルから本を選ばせる。 ○テーマ別ブックリストや自分の読書記録があれば，本 ○p. 29の「組み立てメモ」や，p. 30・31の発表例を参考に，聞いている人が読んでみたくなるような発表の仕方を工夫させる。 ○「組み立てメモ」のうち「始め」「本の内容」「終わり」に示したものついては，その全てを発表する必要はない。 ○発表のタイトルは，テーマの言葉をそのまま使うのではなく，工夫させる。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，学習の見通しをもって，「読書発表会」で本を紹介しようとしている。
				4・5	２．「読書発表会」をする。	○実物の本を聞いている人に見せながら，発表させる。 ○発表会後，友達の紹介を聞いて読みたくなった本を発表させる。本教材以外でも，時間を工夫して，読書に取り組みやすい環境を用意するようにしたい。	
11	4 （話す聞く1）	言葉が表す感じ，言葉から受ける感じ	△言葉や音が表すイメージや，イメージに即した言葉を考えたりすることによって，言葉の特性について考える。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1	○「言葉」について学ぶという学習内容を理解して，学習の見通しをもつ。 １．犬や身近なものを表す名前などをもとに，言葉から受けるイメージについて考えて，話し合う。	○言葉や音が表すイメージについて考えたり，言葉を作ったりすることをとおして，言葉の特性について理解するという学習の見通しをもたせる。 ○「チロ」という言葉から受けるイメージについて考え，また，なぜそのようなイメージが生じるのかについて考える。 ○言葉から受けるイメージが，誰でも共通のことなのかどうかなどについて確かめる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで，言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし，学習課題に沿って，言葉がもつイメージについて考えようとしている。
				2・3	２．擬声（音）語や擬態語をもとに，音とイメージの関係について考える。	○それぞれの擬声（音）語・擬態語によってどのような感じ方の違いが生じるかを確かめさせる。 ○清音と濁音・半濁音の感じ方の違いにも気づかせる。	
				4	３．「強そうな名前」「はじける感じ」など，言葉（音声）と感覚の結びつきについて考え，話し合う。 ４．自分でお菓子の名前を考えて，意味や気持ちなどが共有できるかどうか確かめる。 ５．意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え，言葉の特性について理解する。 ○学習を振り返る。	○形や大きさ・色・硬さなど，具体的に想定することが前提になる。自由に発想させたい。 ○想定したお菓子のどのような性質・特徴を表した名前なのかをきちんと認識させる。 ○自分で考えたイメージを表す名前が，他者に通じるものであるようにさせることが大事になる。 ○言葉の性質やおもしろさや，他者とイメージを共有させることによって意思を通じ合わせることができることなどについて，常に意識できるようにはたらきかける。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	8 （話す聞く8）	二　目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら，話し合いの進行に合わせ，互いの考えを伝え合って話し合う。				
		新スポーツを考えよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り，分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。	1	○単元名やリード文を読み，役割を決めたり，進行に従って話したりする方法について話し合い，学習の見通しをもつ。 （1）これまでのクラスの話し合いを振り返る。 （2）これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。 **決めよう・集めよう** １．誰と，どんな新スポーツをやりたいかを考える。 （1）クラスで話し合う新スポーツについて決める。 **組み立てよう** ２．役割を決め，進行について打ち合わせをする。 （1）話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。 ＊シナリオ会議やロールプレイを行う。	○司会者や提案者・発言者などの役割を把握して話し合いに参加したり，友達との意見や考えの共通点や違う点を理解したりして，進行に合わせて話し合いができるように意欲づけ，学習の展開がつかめるようにする。 ○話し合いの時・場所・人数など，さまざまな状況に合わせてどのような話し合いをしてきたかを想起させる。 ○どのような話し合い方でどのような結果になったか。 ○役割分担ができていたか，活発に意見交換ができていたか，自分の意見をきちんと伝えることができたか，他者の意見を正しく受け止めることができたか，みんなが参加することができたか，納得できる結論にいたったか，話し合いをしてよかったかなどの点を確認する。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たし，学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
				2・3	**話そう・聞こう（重点）** ３．役割に気をつけて，クラスで話し合う。 （1）教科書を読み，夏川さんのクラスの例をもとに学習の流れをつかむ。	○これまでに行ってきた話し合いを想起させる。特に，「他者の意見をきちんと聞けていたか」「特定の人だけが発言していなかったか」「目的にそった話し合いができていたか」「役割をきちんと決めた話し合いができていたか」などについて，振り返る。 ○学級会の目的を確認する。	
				4	**伝え合おう** ４．話し合いを振り返る。 （1）夏川さんのクラスの話し合いをもう一度読み，どこがよいのか発表し，役割ごとの留意点を確認する。	○生活班で出し合い，その後全体で発表し合う。 ○自分たちと比べて上手な場面や言い方を具体的に出し合う。 ○振り返りの際は，脚注にある話し合いのポイントを生かす。 ○複数回行うことを知らせ，多くの児童が役割を経験できるようにする。 ○無理のない日程を計画する。	
				5〜7	（2）学級会（2回め）を行い，振り返りをして，次の準備を行う。 （3）学級会（3回め）を行い，振り返りをする。		
				8	（4）自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか，友達の意見と自分の意見をつないだり，比べたりして話し合えたか，ノートに書いて発表し合う。 ○今後のクラスでの話し合いについて考える。	○具体的に場面や言葉をあげるようにする。 〈振り返りの観点の例〉 ＊役割分担にそって話し合うことができたか。 ＊話し合いの目的に合った発言ができたか。 ＊話し合いの進行に合わせて発言ができたか。 ＊理由を明らかにしながら，自分の考えをきちんと表すことができたか。 ＊丁寧な言葉づかいで話すことができたか。 ＊他者の発言を正しく聞くことができたか。 ＊自分の考えと他者の考えの違い（または同じ点）に気をつけて話すことができたか。 ＊みんなの意見をまとめることができたか。 ＊話し合いの結論はどうなったか。 ○常に，役割や進行について考え，話し合いの目的にそった話し合いをしていくことができるよう意欲づける。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	2	漢字の広場　④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には，複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1 2	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 ２．「手」の五つの意味別に，語句を集め，話し合う。 ３．選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え，「本」「親」「名」「原」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 ４．漢字辞典を使って，「長」「家」「札」がもつ複数の意味を調べる。 ５．漢字辞典を使って，これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し，意味別に熟語を集め，ノートにまとめる。	○いろいろな意味を表す漢字について理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○一つの漢字に，いくつかの意味を表すことがあるということを「手」を例に考える。 ○「行く手」「手作り」など例示の語を使って短文を作り，具体的に考えさせる。 ○「手」の漢字を中心にして，構成される語句を意味ごとにつないでいくマップにまとめるとよい。 ○漢字を中心に，その漢字から構成される語句を意味ごとにつないでいくようなマップにまとめるとよい。 ○漢字の意味と，熟語や複合語などの語句の意味とを関連させて考える習慣を身につけられるようにしたい。 ○漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ，漢字の意味と語句の意味との関連に興味がもてるようにしたい。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
	2 （書く2）	漢字の広場　④ 三年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	６．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ７．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ８．作った文を互いに発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p. 44の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかるこの校庭の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○この校庭の様子がはっきりわかるよう，書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○互いのよいところを発表し合うとよい。 ○互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして，その内容や表現について，感想や意見を述べ合い，自分の文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 ○いろいろな意味を表す漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11 ～ 12	9 （書く2）	三　大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列にそって読み，興味をもった点から整理して文章を要約する。				
		ウミガメの命をつなぐ	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	1～6	○題名や単元とびらの２枚の写真を手がかりに学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．ウミガメやウミガメの産卵，「ぜつめつのおそれがある動物」などについて，知っていることを話し合う。 ２．名古屋港水族館のウミガメ保護の取り組みを読み，研究経過を整理する計画を立てる。 ３．ウミガメの産卵研究を読み，課題や研究方法，成果などを整理する。 ４．ウミガメにタグをつけて放流する研究を読み，研究方法や成果，課題などを整理する。 ５．ウミガメに送信機をつけて放流する研究読み，研究方法や成果，課題などを整理する。	○二枚の写真やその説明から文章の内容を予想したり，単元名から学習の内容を確認したりして，学習の見通しをもたせる。 ○p.47の④段落「どんな研究」「どんな課題」，⑤段落「まず水族館が取り組んだのは～」，p.49の⑩段落「もう一つの研究」などの表現に着目させ，名古屋港水族館が取り組んだ研究の概要を捉えさせるようにする。 ○年代を表す言葉に注意しながら，名古屋港水族館の二つの研究を時系列にそって整理する。 ○文章と写真や図との対応にも注意させ，研究の内容を	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）
				7	**考えよう** ７．『ウミガメの命をつなぐ』を読んで興味をもったことを中心に大事な言葉や文を書き出し，要約する。	○興味をもった点は，一人一人違ってよい。文章の内容だけでなく，筆者の説明の仕方（図や写真・表などの用い方）に注目する児童もいるだろう。 ○誰がどのような点に興味をもったのかがわかるように，短冊などに書かせ，掲示する。 ○興味をもった点が，文章のどこに書かれているのか，線を引かせる。 ○p.57「ここが大事」を読み，「要約」について共通理解する時間を設ける。 ○抜き出した言葉や文をそのままつなげてしまう児童もいるので，p.54の例を参考にし，必要な言葉や文だけを引用することや，自分の言葉で短く言いかえてもよいことを知らせる。	【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ）
				8	**深めよう** ８．「要約」を取り入れて，『ウミガメの命をつなぐ』を読んで興味をもったことを紹介する文章を書く。	○P55下段の例を参考に、紹介文の構成をつかませる。 ○P54の要約文とP55の紹介文を比べて、紹介文の書き方を確認する。 ○題名をつけ、興味をもったところ、要約、感想の構成で書くようにする。 ○文章の書き出しが決まると書きやすい。 ○写真や表などに注目した児童には，写真や表の説明にあたる言葉や文に線を引かせるようにする。	【態度】積極的に，目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し，学習の見通しをもって，本教材の紹介文を書こうとしている。
				9	**広げよう** ９．それぞれがどんなことに興味をもったか，そのためどのような紹介文ができたかに気をつけながら，『ウミガメの命をつなぐ』の紹介文を読み合う。 ○学習を振り返る。	○「どのような点に興味をもったのか」「それが文章ではどのように書かれているのか（要約）」「それに対する感想」という構成で紹介文を書かせる。 ○「中」にあたる要約は「２(3)」の学習活動で書いたものをそのまま用いてよい。 ○何に興味をもち，それをわかりやすく要約できているかという視点で交流させる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	2	二つのことがらをつなぐ	△二つの事柄をつなぐとき，使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し，接続語のはたらきを意識して，正しく使い分ける。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の問いを通して，二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。 １．教科書を読み，二つの事柄をつなぐ言葉（接続詞や接続助詞）のはたらきを理解する。 ２．接続助詞と接続詞の対応を考えながら１文を２文に分ける。 ３．接続助詞の意味を考えながら，後に続く文を考える。 ４．つなぐ言葉に注意しながら２文を１文にする。 ○学習を振り返る。	○接続助詞が違うことでどのように文意が違ってくるか考えさせる。 ○接続助詞によるつなぎ方の違いで，文意がどのように違ってくるか理解させる。 ○接続助詞が表す意味を考えさせながら，対応する接続詞を選ばせる。 ○１文を２文に分ける際，接続詞が適切な位置にきているか，各文の文末が言い切りの形になっているか確認させる。 ○作成した文は発表させるなどして，不自然な点がないか確認するとともに，いくつか文が作れることに気づかせる。 ○接続助詞に対応する接続詞を考え，接続詞の位置，文末の形に気をつけながら文を作成させる。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで接続する語句の役割について理解し，学習の見通しをもって，接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	6 （書く6）	四　調べたことをわかりやすく書こう	■図や写真などの資料を活用し，紙面を工夫して図鑑を作る。				
		「不思議ずかん」を作ろう	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2・3 4 5 6	○教科書の作品例を読み，秋山さんが工夫していることを確認する。 ・題名の工夫 ・書き出しの工夫 ・写真や図表の工夫 ・「ひと言メッセージ」や「参考資料」を書き加えている　　等 ○「学習の進め方」を読み，学習活動の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．図鑑に載せるものを決め，調べる。 （1）身のまわりの不思議を集め，書きたいことを選ぶ。 （2）題材について取材する。 **組み立てよう** ２．組み立て表を作り，グループで話し合う。 ○できた組み立て表をグループの友達と交換して読み，意見を伝え合う。 **書こう・読み返そう（重点）** ３・４．図鑑の原稿を書き，読み返す。 **伝え合おう** ５．グループで発表し合う。 ○表紙や目次をつけて，図鑑を作る。 ○学習を振り返る。	○図の使い方，秋山さんの工夫（題名，書き出し，参考資料）に気づかせる。 ○気づいたことや疑問に思ったことをメモしたり，もっと詳しく知りたくなったことを図書館で調べたりするよう指導する。 ○必要に応じて，デジタル機器（パソコン・タブレット端末・デジタルカメラ等）も活用させたい。 ○p. 65「じょうほうを集めて活用しよう」を参考に，目的に合った調べ方を学ばせたい。 ○できた組み立て表を友達と見合いながら，書き手の目的や意図，伝えたい内容と表現の関係に注意して，わかりやすく伝えられているか意見を述べ合うようにする。 ○必要に応じて図や写真などの資料を入れたり，資料と関連する表現を書かせたりする。 ○読む人が興味をもって読めるような内容になっているか，伝えたいことがわかりやすく伝わるような表現になっているかどうか，などの観点で交流させる。 ○表紙，目次などをつけて本の形にする。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
12	4 （書く1）	故事成語	△故事成語の意味を知り，友達に紹介するためのカードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり，我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	1 2 3 4	１．教材文を読んで，知っている故事成語について話し合う。 ２．教科書p. 71に例示されている故事成語について，辞典を使って意味と成り立ちを調べる。 ３．故事成語を集めて，もとになった故事や意味を，辞典を使って調べ，カードに書き，互いに交流する。 ４．好きなカードを選び，それぞれの故事成語の意味として書かれた場面（意味）を，これまでの自分の経験や生活の中の一場面でたとえる簡単な文を書き，発表する。 ○学習を振り返る。	○「五十歩百歩」を読んで，意味と成り立ちがあるという故事成語の特徴をおさえる。 ○「五十歩百歩」「漁夫の利」「蛇足」「矛盾」にあてはまるような日常生活の場面を想起し，故事成語がどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。 ○辞典や故事成語について書かれた書物を使って調べ，ノートにまとめさせる。 ○辞典で，集めた故事成語の用法も調べさせる。 ○使いやすい大きさのカードを用意しておくとよい。カードを交換して，友達どうしで読み合うようにする。 ○故事成語の意味が自分たちの生活の場面に正しくたとえられているか，確認する。 ○みんなの発表がわかりやすく簡潔になっているかどうか，評価する。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に，長い間使われてきた故事成語の意味を知り，学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	2	詩を楽しもう いろいろな詩	□さまざまな形の作品を読みながら，詩の世界を楽しむ。 △文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，**読**書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ	1・2	1．『いろいろな詩』 (1) それぞれの詩を読み，感じたことを発表し合う。 (2) それぞれの詩の題名から，どのようなことを思い浮かべるかを考える。	○まずは，題名と詩とのイメージのつながりを話し合う。 ○そのうえで，題名から浮かぶ，自分なりのイメージを一行程度の言葉で表す。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cオ） 【態度】進んで，詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
		おおきな木			2．『おおきな木』 (1) 詩を音読し，内容を把握する。 (2) 詩に見られる工夫を考える。	○「おおきなって」や「ようけ」などの言葉に気をつけて内容を理解させる。 ○気がついたことや思ったことなど，自由に発表し合うように促す。 ＊視覚的な効果（作品全体が木の形になっている。） ＊初行と終行との対応 ＊「おおき」の繰り返し ＊「おおき」の意味の違い ＊関西弁のおもしろさ	
		とびばこ　だんだん			3．『とびばこ　だんだん』 (1) 言葉の重なりや繰り返しに気をつけて音読する。 (2) なぜ，とびばこが「かいぶつ」に見えたのかを考える。 4．気に入った詩の形式と同じような詩を考え，発表し合う。	○二連の視覚的な効果，高くなるにしたがって「～かな」「～よな」と変化していることに気づかせる。三連めは，失敗の連続のようである。 ○なぜ，「かいぶつ」に見えたのか，また，自分なら何に見えるだろうかということを考える。 ○『いろいろな詩』をまねる場合は，教科書にはない題を考える。 ○『おおきな木』『とびばこ　だんだん』をまねるときは，詩の内容に対応するような形を考える。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	2	漢字の広場　⑤ 熟語のでき方	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について，問題を解きながら確認し，二つの漢字のつながり方を考える。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ェ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「高温」「寒冷」「苦楽」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。 ２．「熟語」の定義を知り，漢字の意味を考え，熟語の構成について理解する。 ３．「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。 ４．「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語を考え，話し合う。	○熟語のでき方を理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○三下『漢字の広場⑥　二つの漢字の組み合わせ』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 ○「熟語」は今後も常用する用語なので，定義をしっかりおさえるようにする。 ○熟語をもとの単語に分解し，意味を類推できるようになることが重要である。 ○「良薬」から「良い薬」と読み下すとともに，「良い薬」から「良薬」を想起できるようにすることも大切である。 ○四上の『修飾語』での学習を生かすようにする。 ○考えた熟語をもとに短文を作り，もとの語句と比べるとよい。 （例）山おくの清らかな流れに魚が泳ぐ。 　　山おくの清流に魚が泳ぐ。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ェ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
				2	５．「思考」「前後」を例に，「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」について考える。 ６．「にた意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり，集めてノートにまとめたりする。 ７．「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり，集めてノートにまとめたりする。 ８．国語辞典や漢字辞典を使い，集めた熟語の意味を調べる。	○「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」は，現代日本語の二字熟語のうち約２割を占める。使用機会が多いことと，抽象的な概念を表す語に多いことから，この教材で意識的に取り組み，漢字の意味から語句の意味が想起できるようにしたい。 ○国語辞典や漢字辞典を活用して，漢字の意味と語句の意味との関連を調べるようにする。 ○漢字どうしが類義語の関係になっていることをおさえる。 （例）学習→まなぶ・ならう ○漢字どうしが対義語の関係になっていることをおさえる。 （例）多少→おおい・すくない ○辞典を活用して，一つ一つの漢字の意味を確認し，熟語の意味と対比できるようにしたい。	
	2 （書く2）	漢字の広場　⑤ 三年生で学んだ漢字　⑤	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ェ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	９．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 10．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 11．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.80の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように，伝えたいこと，知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○熟語のでき方について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ェ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1～ 2	15 （話す聞く9，書く1）	五　自分の経験と結びつけて考えよう	◇□身のまわりの道具や設備について，「便利」とはどういうことかを考えながら話し合ったり読んだりし，自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。				
1	1 （話す聞く1）	身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び，使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1	○便利なものについて考え，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．身のまわりにある便利なものについて考える。 （1）自分が便利と思うものをあげ，その理由を考える。 （2）便利と思うものとその理由について，友達と話し合う。 （3）「便利」とはどのようなものかを考える。 ○学習を振り返る。	○自分の生活体験から考えさせる。便利なものの名前だけを先に付箋紙に書いて出させてもよい。 ○クラス全体やグループで，便利だと思う理由を話し合わせる。いろいろな視点から多くの意見が出されるように支援する。 ○みんなの意見から，どのようなものが「便利」なのかを考えさせる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで，目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし，学習の見通しをもって，クラス全体やグループで話し合おうとしている。
	6 （書く1）	「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み，自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆道徳：本文の読みを通して「便利」について考	2 3・4 5・6	○単元名とリード文を読み，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．全文の範読を聞き，興味をもったことを書く。 **考えよう** ２．文章に示されたさまざまな道具や設備から「便利」さについて考えるとともに，それらの例をもとに筆者が伝えようとしていることを話し合う。 （1）p.90に示された三つの道具や設備について，誰にとって「便利」であるか，文章から考え，ノートにまとめる。 （2）筆者が伝えようとしていることを考え，話し合う。 **深めよう** ３．文章と，自分で感じた「便利」「不便」という経験を結びつけて，改めて「便利」について考える。 （1）「見たこと・聞いたこと・したこと」など，自分の経験から「便利」だと感じた道具や設備を思い浮かべる。 （2）自分が決めた題材について，文章中の言葉や文を引用しながら考える。 （3）「便利」について自分が考えたことを文章で書く。文章中からその題材の「便利」さを裏づける言葉や文を探す。	○さまざまな道具や設備から「便利」について考え，身のまわりの「便利」について考えたことをまとめるという単元の流れを確認する。 ○「チャイム」「はさみ」「歩道橋」という三つの道具や設備について考えさせる。⑤段落に書かれている「耳の不自由な人」にとっては「便利」だが，「目の不自由な人」にとっては「不便」であることに注目させる。 ○⑦段落の「便利」の定義は，「便利」について考える際の土台となるため，共通理解を図りたい。 ○⑨段落は「便利」と「不便」について述べられ，⑪段落にはさみが例としてあげられている。写真のはさみはどのような立場の人にとって「便利」なのか。包丁についてもノートにまとめさせる。 ○⑬段落の歩道橋の例は，「便利」と「不便」がわかりやすい。⑮段落をもとに「便利」と「不便」をノートにまとめたあと，「不便」を少なくする二つの改良例と，それによって「便利」に感じる人についてもまとめさせる。 ○どの段落を読めば，その道具や設備について考えられるかを全体で確認し，一人一人がまずノートにまとめ，それをグループや全体で交流させる。 ○筆者が伝えようとしていることがわかる言葉や文に線を引かせる。そのうえで，線を引いた箇所を二人組やグループで意見交流し，全体での話し合いをとおして，一人一人がノートに考えをまとめるようにする。 ○文章に示された道具や設備をもとに，自分の身のまわりを見つめ直させる。 ○さまざまな設備や道具を事前に調べ，児童に提示できるようにしておきたい。p.85にある参考図書などを教室に用意しておくとよい。 ○p.83「ここが大事」を読み，経験と文章を結びつけることの大切さを知らせたい。 ○書こうとする題材が決まったら，その題材が「便利」であることを裏づける言葉や文を文章中から探させる。 ○自分の考えを裏づけるために引用を取り入れることを確かめるようにする。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
				7	**広げよう** ４．グループで文章を読み合い，感想を話し合う。 ○学習を振り返る。	○誰にとって便利（不便）なのか，言葉や文を適切に引用できているか，便利について考えたことが伝わるか，などで感想を話し合わせる。	
1～ 2	8 （話す聞く 8）	調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて，写真や図，表やグラフなどを使って説明したり，話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。	8 9・10 11・12 13・14 15	○単元名やリード文を読み，資料を効果的に活用して発表する方法について話し合い，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．調べることを決め，資料を集める。 （1）教科書を読んで全体の流れを確認する。 （2）学習計画を立て，テーマやグループを決める。 （3）調べる方法を考える。 （4）テーマにそって調べる。 **組み立てよう** ２．発表の組み立てを考えて，練習する。 ＊声の大きさ，間，強弱などの観点をはっきりさせて練習する。 ＊発表したら助言を行う。 ＊練習後には資料の効果について確認する。 **話そう・聞こう（重点）** ３．資料を使って発表会をする。 （1）発表するときと聞くときの大事なことを確認し，発表会を行う。 **伝え合おう** ４．質問や感想を伝える。 ○学習を振り返る。	○発表会を行い，調べたことについて写真やグラフなどの資料をもとに筋道を立てて説明したり，話の中心に気をつけて聞いたりすることを理解し，学習の流れをつかませる。 ○発表を行うと同時に，質問や意見交換の場が大切であることを確認する。 ○p. 94の「学習の進め方」で，学習の流れを確認する。 ○p. 95を参考にして「身のまわりの道具や設備を調べて便利だと感じること」という大きなテーマに対して，自分たちはどこに焦点化するのかを決めるために，写真などを持ち寄る。 ○p. 96の「発表計画表」を読んで，話す内容，話す人，使う資料，工夫することを確認する。 ○「路面電車」のように具体的に調べることを決め，それに適した調査方法を考える。 ○資料を示しながら発表をするので，資料で見せることと口頭で説明すべきことを区別するよう工夫させる。 ○グループ内の分担を工夫する。 ○グループ内で，練習を聞き合うようにするとよい。 ○発表会は，発表するグループと聞くグループとが交替して，相互に聞き合えるようにする。 ○聞き手は，自分たちの調べたこととも考え合わせて聞く。 ○場の設定や時間配分を工夫し，なるべく多くの回数を行えるようにする。 ○振り返りでは，写真や図・表・グラフなどの資料の効果や，この発表形式のよさを評価することも大切である。 ○資料を効果的に活用して，発表する方法について，日常生活でも行っていけるよう意欲づける。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】積極的に，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。
2	2	点(、)を打つところ	△読点のはたらきを理解して，正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ	1 2	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．「ここではきものを～」「姉がうれしそうに～」の二つの例文を読み，読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。 ２．二つの例文に読点を打ち，意味がどう変わるのか確かめる。 ３．読点の打ち方の原則を理解する。 ４．「点を打つ場所」に気をつけて，p. 102・103の設問に取り組む。 ○学習を振り返る。	○教材冒頭のふきだしによって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○例示された文を声に出して読むことで，なぜ，読点を打たなければならないのかの問題意識を明確にもたせる。 ○読点を入れて読むことで，読点が読みやすさに及ぼす影響を考えさせる。 ○どのように打つべきかの原則を，教科書にそって学習する。 ○適切にくぎって，読みやすい文章を作るようにする。適切にくぎれるかは，文の意味を理解しているかにつながる。 ○文を書くときにも，読む人の立場に立って読点を打つようにする意識をもたせたい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで句読点のはたらきを理解し，学習課題に沿って，文や文章の中で適切に使おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	9 （書く9）	六　伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように，よりよい表現を選んで書く。				
		自分の成長をふり返って	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2 3・4 5～7 8 9	○「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り，見通しをもつ。 ○教科書の作品例を読み，羽田さんが工夫していることを確認する。 ＊題名の工夫 ＊書き出しの工夫 ＊会話文の工夫 ＊構成の工夫「始め」「中」「終わり」 ＊いちばん書きたかったこと等 **決めよう・集めよう** １．自分の成長を感じたできごとを思い出し，書くことを決める。 **組み立てよう** ２．組み立て表を書き，友達と意見を交換する。 ○友達からもらった意見を参考にして，組み立て表を見直し，書く内容を考え直す。 **書こう（重点）** ３．文章を書く。 **読み返そう（重点）** ４．文章を読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．文章を読み合い，感想を伝え合う。 ○友達の作品のよかったところを確認する。 ・クラス全体で確認する。 ・出てきた点について，自分の作品を読み直す。	○教科書を読み，「学習の進め方」を確認し，単元のゴールを明確にする。 ○羽田さんの作品を読み，よいところを読み取る。（様子が詳しく書かれている，いちばん伝えたいことを「中」にもってきて詳しく書いているなど。） ○メモにどんどん書き出して，思い出させる。 ○一人で思いつかない児童には，友達にインタビューさせて書かせるなど，まず口頭で言わせるようにする。 ○組み立て表をもとに交流し，いちばん伝えたいことを一つにしぼるようにする。 ○いちばん伝えたいことが詳しくなるように，友達に質問してもらい，詳しく書けるようにする。 ○中心となる場面が「中」になるようにする。 ○友達の意見を参考に，組み立て表を見直し，もう一度書く内容を整理させる。 ○中心となる場面を「中」にし，詳しく書かせる。 ○会話文や心内語を多く入れるなどの工夫を促す。 ○段落意識をもたせ，場面ごとに段落を変えるようにする。 ○中心となる場面が詳しいか，文字のまちがいや主語・述語のねじれはないか，気持ちを表す言葉はその言葉で適切か，段落分けはできているか，などを確認する。 ○内容面で感想を伝えるだけでなく，書き方の工夫も伝えるようにする。 ○心の動いた場面が詳しく書けたかどうか振り返らせる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） ◎【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に，書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い，学習の見通しをもって，よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。
2	1 （書く1）	雪	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1	１．教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り，声に出して読む。 ２．「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて，ノートに書く。	○「雪月花」の意味を知り，上巻で学習した「月」の言葉や表現を思い出し，「雪」や「花」について言葉や表現を集める意欲をもたせる。 ○「雪」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。また，和歌や唱歌を音読して，文語のリズムに親しませる。 ○どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ○発展として，「花」の表現研究を家庭学習などとして促すことも考えられる。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで，長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし，学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	2	漢字の広場　⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって，漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「はやい」「なく」「かわる」を例に，場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。 ２．「以外・意外」「機械・機会」を例に，同じ音の漢字の使い分けについて，熟語の意味をもとに考え，話し合う。 ３．同じ訓の言葉（異字同訓）や同じ音の熟語（同音異義語）のそれぞれの意味を国語辞典で調べて，短文を作り，漢字の使い分けについて話し合う。	○同じ読み方の漢字の使い分けについて理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○三上『漢字の広場②　漢字の音と訓』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 ○例文を音読し，意味を考えるようにする。 ○同訓や同音の語の中には「着る」と「切る」，「意外」と「以外」のようにアクセントによって弁別できるものがある。同じ読み方の部分に注意しながら用例の文を声に出して読み，言葉の響きへの関心を高めるようにしたい。 ○組みごとのそれぞれの漢字のもつ意味と使い方を正しく理解できるようにすることが大切である。国語辞典を利用し，それぞれの漢字の意味や使い方（熟語など），用例（文など）を調べて比較し，整理できるようにしたい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し，学習課題に沿って，文や文章の中で正しく使おうとしている。
				2	４．同じ読み方の漢字の使い分けについては，別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。 ５．別の言葉に言いかえる方法を使い，Ｐ113下段の設問を解き，それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。 ６．異字同訓や同音異義語を使った短文を作り，それぞれの意味の違いを話し合う。	○「熟語をもとの単語に分解し，意味を類推する」という『漢字の広場⑤　熟語のでき方』での学習を生かすようにする。 ○あてはまらないほうの言葉を使った文を作り，意味の違いを比べるとよい。 （例）全員がいっしょに席に着く。 　　ほこりが，みんなの席につく。 ○同じ読み方であっても漢字や熟語の意味が全く異なることがあるおもしろさに気づかせることが大事である。言葉の使い方の感覚にいっそうの関心をもつことができるようにしたい。	
	2 （書く2）	漢字の広場　⑥ 三年生で学んだ漢字　⑥	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	７．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ８．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ９．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○漢字の使い方や表記などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○p. 114の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる事柄をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○発問例「絵の中の子は，それぞれ何の話が書かれてる図書を読んでいるのでしょう。」 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○絵に描かれている図書の中から，中心に述べたいお話を一つにしぼり，文章の構成を考えるようはたらきかける。 ○条件をつけて文や文章を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○同じ読み方の漢字の使い分けについて正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，お話の一場面を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
3	8 （書く2）	七　場面のうつり変わりと，登場人物の気持ちの変化を読もう	□登場人物の考え方の違いや，その移り変わりを考えながら読み，気に入った場面を物語のように書きかえる。				
		木竜うるし（人形げき）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	1	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．全文の範読を聞き，あらすじを確かめる。 ・登場人物，できごとを確認する。 ・登場人物について思ったことを書く。 （1）「一」の場面「深いふちのそば」を読み，権八と藤六の性格について話し合う。 （2）グループで役を決めて「一」の場面を音読す	○初発の感想をもとに，登場人物の性格や考え方の違いを読むという学習の課題を自覚する。 ○「ここが大事」などをもとに，脚本はせりふと「ト書き」からできていることを知る。 ○「一」の場面のせりふを手がかりに，権八と藤六の性格の違いを読む。また，それが表れるように工夫して音読する。 ○作品全体を見渡して読み，おおまかなできごとの流れをつかむ。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，脚本を物語のように書きかえようとしている。
				2	**考えよう** ２．『木竜うるし』を読んで，権八の気持ちの移り変わりを捉える。	○権八は，起伏する感情や意思が大きく表れている箇所に線を引いていけば考えやすい。 ○権八は自分の欲の深さも多少は自覚している。そこから，気持ちが変わった訳を考えるようにする。また，藤六との関わりも重ねて考えるようにする。	
				3・4	○権八の考えや気持ちは少しずつ変化していく。それがわかるせりふと，変わったわけを，ノートにまとめる。	○権八は，冒頭と結末とで言動や気持ちに大きな変化が見られる。権八の気持ちが変化し始めたのはどこからなのか，どのように変わっていったのかを個々のせりふをとおして考えさせる。	
				5・6	**深めよう** ３．権八の気持ちが変わったのはなぜかを話し合い，考えをノートなどにまとめて書く。	○「変わったわけ」については，前後の状況を踏まえながら，根拠をはっきりさせて想像を膨らませるようにする。 ○p. 140の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	
				7・8	**広げよう** ４．気に入った場面を選び，物語の文章に書きかえる。物語の文章と脚本との違いを話し合う。 ○学習を振り返る。	○この脚本では，詳しい説明，登場人物の気持ちの表現はない。散文化するときは，詳しい場面・状況や気持ちの変化などは，地の文として描かれる。したがって，せりふを基本にしつつ，ト書きを参考に想像を膨らませながら地の文を書いていく。 ○各人物の動き（手・足）や周囲の明暗などにも目を向けさせたい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
3	2 （話す聞く1，書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ■記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1	１．一年間の国語の学習を振り返り，自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。	○上・下巻の教科書，学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などから振り返ることができるようにする。挿絵やふきだし，「四年生で学ぶこと」を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ○心に残っている単元や教材，学習活動，また心に残っている言葉などを具体的にメモし，発表し合う。 ○友達の発表を共感して聞き，交流し，学んできたことを共有できるようにする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。　（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，今までの学習を生かして，１年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。
				2	２．五年生になったら１．で出し合ったことがどのように広がっていくのか，想像したり希望を出し合ったりする。	○五年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など，いろいろな観点で話し合うようにする。	